

平成30年度第3回京都市域地域コミュニティ活性化推進審議会

- 1 日時 平成31年3月28日（木） 午後6時30分～8時
- 2 場所 職員会館かもがわ 大会議室
- 3 出席者 委員11名（欠席：内田委員，田川委員，中野委員，藤原委員）
事業報告者
貞教自治連合会 : 辰野会長，加藤まちづくりアドバイザー
藤森学区自治連合会 : 田村副会長，永野副会長，杉田理事，白水まちづくりアドバイザー
事務局（吉田文化市民局長，猪田地域自治推進室長，山村地域コミュニティ・北部山間振興部長，大東地域づくり推進課長，他）

4 概要

（1）議題1 地域力アップ学区活動連携支援事業の状況（藤森，貞教）について

- 事務局から資料3-1～3-3に基づき，事務局及び貞教自治連合会，藤森学区自治連合会から，事業報告し，質疑応答と意見交換を行った。

◎ 立木会長

この事業は，地域の中にある各種団体のつながりを作り，地域全体の意思決定ができる場，情報交換ができる場を作っていくことが大事であるということから，本計画に掲載されている事業である。両学区とも苦勞されたと思うが，アドバイザーを活用するなど行政とも連携して，活動されたと思う。

○ 平田委員

それぞれの学区の地域自治組織の在りようが異なっている中で，今回，両学区がそれぞれの方法で各種団体の横のつながりを模索された。こういった実践型の事業を行うことが重要である。

○ 越山委員

両学区ともに町内会それぞれで意見が異なったりすると思うが，そのような町内会の意見を集約することに対し，どんな工夫をされたか。

● 田村副会長

町会長を対象としたワークショップを3ブロックに分けて実施した。ワークショップの中で，それぞれの町内が抱えている問題や，課題解決に向けた手法の共有等を行った。また，今度は自主防災会主催で避難訓練を行うが，訓練の際に各種団体が支援をするような形をとる方向で検討している。

● 辰野会長

町会長を含めたワークショップを実施した。今までは，そういった場もなかった。ワークショップでは，各町の違いが見えてきた。

○ 越山委員

町内会長と各種団体のつながりがあり，意見を交換できるようなフラットな関係であることが重要であると思う。そこから，新たにイベントや広報誌などを共有していくことから，新たなコミュニティやコミュニケーションが生まれると思う。

○ 山本委員

それぞれの行政区でも地域性の違いや、時代の流れなど、各地域を取り巻く状況は異なるが、地域の住民が仲良くなり、災害のときに助け合うなど、知恵を出しあって前に進んで行くことが地域力であると思う。

また、両学区の活動の中でも、地域の住民に向けた広報活動はとても重要であると思う。

◎ 立木委員

さまざまな切り口で汗を流すと、地域力は向上するのだという事例を作っていたのだと思うし、この活動を持続可能なものにしていただきたい。また、次期計画にも今回の事例を踏まええたものを載せていくべきである。

(2) 議題2 平成30年度 of 主な取組状況について

ア 自治会・町内会アンケートの集計について

イ 転入者地域交流支援制度について(条例改正)

ウ 「地域団体とNPO法人の連携促進事業」募金状況について

■ 事務局から資料4, 5-1~5-3, 6を中心に説明

○ 特に意見等なし

(3) 議題3 平成31年度京都市地域コミュニティ活性化推進事業計画(案)について

地域コミュニティの形成に積極的なマンションを認定する制度の検討について

■ 事務局から資料7, 8を中心に説明

○ 越山委員

マンションの管理組合や事業者など誰を対象とする制度なのかをもう少し明確にしたらどうか。マンションによって町内会への加入の形態もさまざまであるため、町内会の加入状況だけであんしん・あんぜんマンションを認定することも難しいと思う。

また、今後、他の部署との連携もしながら、事業者にとってのインセンティブも考えていったらどうか。

◎ 立木委員

この制度の目的は、マンション住民の地域コミュニティへの参加促進であるので、そこをもう少し明確にしていきたい。

(4) その他 次期「地域コミュニティ活性化推進計画」の策定に向けて

■ 事務局から資料9をもとに説明

○ 特に意見無し

(閉会)